2009 年 1 月 10 日

1st Global Forum for Responsible Management Education
2008 年 12 月 4 日～5 日、アメリカ合衆国・ニューヨーク、国際連合本部
参加報告

法政大学人間環境学部
准教授　岡松　暁子

１．会合の趣旨・目的

「責任ある経営」を行うビジネス・リーダーの育成のために、ビジネス・スクールがいかにあるべきかについて、学界、企業双方からの意見を交換し、今後の教育への提言を行うこと。

２．主催者

国連 GC 他。以下を参照。

http://unprme.org/participants/steering-committee/index.php

３．参加者

183 の大学及びビジネス・スクール、企業、個人

参加者リストは、以下を参照。

http://unprme.org/participants/index.php?sort=name&dir=asc&start=180

４．会合プログラム

以下を参照。

http://unprme.org/global-forum/agenda.php

５．報告内容

それぞれの報告内容は、下記を参照。

http://www.unprme.org/resources-and-reporting/index.php

６．出席した会合より

詳細は、上記 URL にあるので、印象に残ったもののみ記録する。

（1）全体会合：12 月 4 日

①有馬利夫氏（富士ゼロックス）は、富士ゼロックスにおける CO_2 削減努力について報告。使用済みカートリッジのリサイクルや技術革新により、削減に貢献している。200 の特許を

取得した。質疑応答において、それらの情報公開についての質問が出されたが、それについては、小さな企業に普及させていくことが肝要である旨の発言があった。

Alberto Andreu Pinillos 氏（Telefonica : スペイン）は、企業を支える様々な要素（組織、規則、手続、信条、ニーズ、動機、期待、技術、システム等）が一緒に機能することが必要であり、そのためのネットワークの構築の必要性を述べた。

Harald Zulauf 氏（Media Consulta International Holding : ドイツ）は、CSR は、マーケティングのツールであり、経済危機は、CSR を通して投資へのリターンについて知るチャンスであると述べた。

②MBA のカリキュラムに、sustainability に関するものが含まれているのか。リーダーシップ、戦略、協力、財政、マーケティング、会計、というような優先順位をつけて考えていく必要がある（Liz Maw 氏）。また、MBA では、入学から卒業に向けて進むにつれ、学生のマネジメントへの自信はなくなっていく。この事実についても考えていかなくてはならない（Matthew Gitsham 氏）。

企業は、個々の役割・スチュワードシップを考えなくてはならない。究極的には、倫理と社会的責任の連携である。したがって、より広い範囲から、多様な人材を雇用し、より統合的なアプローチを持つカリキュラムを作っていかなければならない（Michael Page 氏）。

気候変動、経済、安全保障等、いずれもグローバル・イシューであることを認識しなければならない。文化、セクター、イシューを越えて、異なる大学の学生が一緒に学ぶ必要性がある（Jane Nelson 氏）。

③教育、アカデミック、ビジネスの連携の必要性を充たすために、大学はパートナーとしての役割を果たさなければならない（Eric Falt 氏）。

（２）分科会：12 月 4 日

1A. How to get started with the PRME

様々なディシプリンがつながるようなものを構築していく必要性。大学の様々なステイクホルダー間の対話が重要。

（３）分科会：12 月 5 日

○2B. PRME and Research

原則 4 について。

ビジネス倫理、早い時期の CSR の促進、責任あるリーダーシップ、3rd セクター（NGO など）の統合、公・民のマネジメント、社会企業家精神に関する研究が必要である。そのために、様々な分野、機関から人材を集め、研究のネットワークを構築していかなければならない。

また、現在はまだ研究体系が個別のイシューごとに分かれているが、これらを集めて新しい学部を作るのではなく、これらの連携を強めていくことが肝要である。研究発表の場も、従来のジャーナルは、分野別に分かれているが、学際的なものを出版していく必要がある。

（4）全体会合：12 月 5 日

全体の結論（outcome statement）については、下記を参照。

http://www.unglobalcompact.org/docs/news_events/9.1_news_archives/2008_12_05/outcome_statement_gfrme.pdf

７．全体の所感

国連というよりはむしろアメリカのビジネス・スクール（MBA）関係者が主導して、ビジネス・スクールのあり方に焦点が絞られて議論されていた。出席者の多くはアメリカのビジネス・スクール関係者であり、ビジネス・リーダー育成のためのビジネス・スクールの改革案についての意見交換であった感が否めない。

社会の変革に伴い、求められるビジネス・リーダーの資質に変化がでてきたため、それに対応するためには、ビジネス・スクールのカリキュラムの再編成が必要となることに異論はなかろう。そこで、そのために新たに必要となる人材や、スキル、知識を確保するネットワークの構築の必要性が主張されたわけであるが、これは、GC の本来の主要な課題との間に齟齬があるように思われた。現在の経済危機や社会の要望の変化をチャンスととらえ、新しいマーケットを構築するという発想は、極めて現実的・合理的なものではあるが、社会あるいは企業等において、環境や人権を考慮したマネジメントを行うための手段とは異なるであろう。

さらに、これらの議論が日本のビジネス・スクールに関しても妥当であるかという観点で考えると、日本におけるビジネス・スクールの役割・位置づけが、欧米、とりわけアメリカとは大きく異なるため、疑問が残る。日本においては、企業が内部でビジネス・リーダーを育成しているという側面が強く、ビジネス・スクールによる人材育成は根付いていない。ビジネス・スクールへの進学者の目的も、欧米のそれとは異なり、ビジネス・スクール修了者のその後の進路もまた異なる。しかしながら、本会議では、ビジネス・スクールのあり方に関し、アメリカの視点で議論が進められていた。日本社会の特徴や日本の伝統的企業経営を考えると、果たしてアメリカの基準が世界的に適用されることがよいことであるのかについては、慎重に議論しなければならないであろう。

翻って、類似の社会背景を有する近隣諸国との間での協力は有意義であるかもしれない。また、アメリカ以外の国々が主催する会議における議論も興味深い。

尚、近々開催される関連会議の案内があった。ビジネス・スクールのあり方、企業との

連携、アジア諸国での開催、等の観点からいくつか挙げておく。

・http://www.smu.edu.ph/index.php?option=com_content&task=view&id=191&Itemid=
・https://plus21.safe-order.net/iceo/efmdfebruary2009/step1.php
・http://www.gsb.stanford.edu/exed/csr/faculty.html
・http://www.aacsb.edu/conferences/events/conferences/bbs-mar-09-desc.asp
・http://www.aacsb.edu/conferences/events/conferences/fcle-jun-09-desc.asp
・http://www.efmd.org/index.php/component/efmd/?cmsid=020708220239joom

また、韓国の代表より、下記への参加要請があった。

・http://www.wcf2009.org/

以上。